

R14b CL 0939+4713 銀河団 ($z = 0.41$) の分光観測

仲田 史明、児玉 忠恭 (国立天文台)、田中 賢幸 (東京大学)、他 PISCES チーム

我々はすばる望遠鏡主焦点カメラにより、銀河団 CL0939+4713 ($z = 0.41$) を約 8 Mpc 四方の広視野で観測した。観測は *BVRI* バンドの多色で行われている。検出された銀河について測光的赤方偏移を求めたところ、銀河団周辺部に数多くのサブクランプやフィラメント状の構造が存在することが示唆された (Kodama et al. 2001)。これらが本当に $z = 0.41$ にある構造であるかどうか調べるには、分光観測による確認が必要である。我々はすばる望遠鏡の FOCAS で、分光フォローアップ観測を行ったのでその結果を報告する。

観測は 8 視野について行われているが、これは発見された構造の大部分を効率良く覆っている。観測された 239 個の銀河について赤方偏移を測定したところ、測光的赤方偏移の予想とも良く一致することが分かった ($\sigma |z_{\text{spec}} - z_{\text{phot}}| \sim 0.06$)。今回観測された銀河のうち 101 個は銀河団に付随する銀河と推定され、Kodama et al. (2001) で示唆されたサブクランプやフィラメント状の構造は確かに存在することが確認できた。本講演では、これらの構造と銀河団本体との力学的な関係について議論する。